

大会出場チーム責任者様

第42回全日本少年軟式野球大会(ENEOS トーナメント) 東信地区予選会 大会開催要項

長野県軟式野球連盟東信連合会

1 日時 令和7年4月19(土)・20(日)・26日(土) 予備日4月27日(日)

2 会場 A…佐久市営グラウンド B…浅科総合グラウンド C…大栄小諸野球場
D…県営上田野球場 E…上田城跡公園野球場
(予備…御代田雪窓公園野球場・臼田運動公園グラウンド)

3 参加チーム (20チーム)

<上小地区>

①東御市立東部中学校 ②依田窪南部中学校 ③丸子北クラブ ④一中・北御牧
⑤上田第三中学校 ⑥上田市立第四中学校 ⑦上田第五中学校 ⑧上田第六中学校
⑨塩田中学校 (9チーム)

<佐久地区>

①佐久長聖中学校 ②佐久穂中学校 ③佐久市立東中学校 ④軽井沢中学校 ⑤浅間中学校
⑥臼田・小海中学校 ⑦御代田・芦原 ⑧川上村立川上中学校 ⑨中込・浅科中 ⑩野沢中学校
⑪小諸東中学校 (11チーム)

4 主催 長野県軟式野球連盟東信連合会

5 参加料 10,000円

※自チームの大会最初の試合がある日に、球場に到着後、直ちに本部席に納入してください。

6 大会日程・組み合わせ(別紙)

7 選手登録・ベンチ入りメンバーについて

(1) 選手登録

4月当初に軟連の各支部へ提出する「長野県軟式野球連盟登録用紙」の写しに、背番号を記入し、大会当日(自チームの最初の試合がある日)に、球場に到着後、直ちに本部席に提出してください。
※チーム登録の際に、軟連に提出する登録用紙の原本には背番号は記載しないでください。また、登録用紙を軟連に提出する前に原本をコピーしておき、大会では、そこに背番号記載して提出するようにしてください。

※硬式、Kボールを使用している団体に登録・参加している者は登録できません。

(2) ベンチ入りメンバー

①ベンチに入れる人員は、監督1名、コーチ2名以内、選手10名以上25名以内及びチーム代表者(引率責任者)、マネージャー、スコアラー、トレーナー(有資格者)各1名とします。

※一昨年度より、ベンチ入りできる選手の数の上限が25名となりました。

②監督、コーチともに生徒と同じユニフォームを着用し、背番号は監督が30番、コーチが29番・28番、主将は10番、選手は0番から99番とします。

③チーム代表者(引率責任者)、監督、コーチは20歳以上でなければならない。

④熱中症対策として、保護者2名以内がベンチに入ることができます。

8 大会運営・競技運営に関わる取り決め事項

本大会は、2025年度公認野球規則、(公財)全日本軟式野球連盟発行2025年版競技者必携掲載の審判・選手への注意事項、(公財)全日本軟式野球連盟規律関係集および長野県軟式野球連盟(付

属規定)、並びに本大会取り決め事項により行います。

【本大会取り決め事項】

- (1) 組み合わせ抽選は、大会事務局にて第三者を介しての責任抽選とする。また、東信大会の趣旨を尊重して、1回戦はなるべく上小地区対佐久地区となるようにする。抽選が終了次第、最終大会要項を各チーム責任者へFAXにて送付する。
- (2) 雨天等の場合の実施可否は、午前5時に決定し、各チーム代表者に大会本部から連絡する。
- (3) 出場チームは、試合開始予定時刻の60分前までに会場に到着し、大会本部から打順表を受け取る。
※昨年度から東信連合会の申し合わせ事項で大会当日の2試合目以降のオーダー交換は、3回終了時となりましたので、早めの到着をお願いします。
※打順表へは、登録されている選手全員の名前(但し、25名以内)を記入してください。
- (4) 試合開始予定時刻になっても会場に到着しないチームは、原則として棄権と見なす。なお、交通事故など突発的な状況時には、速やかに大会本部(会場責任者)に連絡する。
- (5) 出場チームは、大会当日(自チームの最初の試合がある日)に、球場に到着後直ちに大会参加料と背番号を記入した「長野県軟式野球連盟登録用紙」の写しを本部席に提出する。
- (6) その日の第1試合に出場するチームは、外野でアップをしてもよいが、フリーバッティングは禁止とする。(トスバッティングは認める)また、第2試合以後に出場するチームは、自分のチームのグラウンドでアップを行ってこること。
※試合会場の周囲で、ボールやバットを使った練習はしないよう指導の徹底をすること。
- (7) 開会式は行わない。
- (8) 試合前のシートノックは5分間とする。
- (9) ゲームは7回戦であるが、暗黒、降雨などで7回までイニングが進まなくとも、5回を終了すればゲームは成立する。
- (10) 健康維持を考慮し、5回終了時以降、試合開始後2時間を経過した場合は、新しいイニングには入らない。
- (11) 守備の時間が長い場合(概ね20分)には、健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けることとする。
- (12) 得点差によるコールドゲームは、5回終了時7点差とする。
- (13) 7回を完了して同点の場合、または5回終了時以降、試合開始2時間を経過し同点の場合は、いずれも延長戦を行わず、直ちにタイブレーク方式とする。
- (14) タイブレーク方式
 - ①継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とする。すなわち、○アウト一塁・二塁の状態にして攻撃し合う。
 - ②タイブレークを2イニングを終了しても決着がつかないときは、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦は、投手の投球数制限を遵守の上、勝敗が決するまで続行する。
- (15) 暗黒、降雨などで5回以前に中止になった場合、または5回を過ぎ正式試合になって同点で試合が中止の場合は、翌日の第1試合に先立って特別継続試合を行う。
- (16) 投手の投球数制限について
選手の肘、肩の障害予防として、1人の投手が1日に投球できる投球数は100球以内とする。
【投球数の管理運用】
 - ①試合中に規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
 - ②ボークにもかかわらず投球したものは、投球数に数える。
 - ③タイブレークになった場合、1日の規定投球数以内で投球できる。
 - ④牽制球や送球とみなされるものは投球数としない。
 - ⑤投球数の管理は大会本部が行う。
- (17) 指名打者制度については、別紙の通りとする。
- (18) グランドルールについては試合前の攻守を決定する際に確認する。

- (19) 優勝チームが、長野県大会への出場権を獲得する。（別紙の「長野県軟式野球連盟少年部申し合わせ事項」を熟読し、理解しておくこと。）
- (20) 審判は、大会2日目までは各チームより1名の塁審を出す。別紙の審判表で担当の試合を確認し、試合開始15分前に本部席に集合して、ミーティングを行う。（塁審は、指導者または保護者とし、審判に適した服装で行う。）
- (21) 試合を行う両チームから、補助員（ボールボーイ・得点）を2名ずつ出す。その場合、登録外選手でも保護者でもよい。
- (22) ユニフォームの左袖には都道府県名を必ず入れる。複数の中学校の選手による合同チームは、自分の中学校のユニフォームを着用してもよいが、背番号は通し番号とする。
- (23) 使用球はナイガイの公認M号球とする。
- (24) グランド整備は、試合終了後、試合をした両チームで行う。

※上記以外の取り決め事項については、2025年度公認野球規則、（公財）全日本軟式野球連盟発行2025年版競技者必携掲載の審判・選手への注意事項、（公財）全日本軟式野球連盟規律関係集および長野県軟式野球連盟（付属規定）のとおりとする。

長野県軟式野球連盟「少年部申し合わせ事項」令和年度版

令和7年 3月16日

長野県軟式野球連盟 会長 赤尾正雄
理事長 北島公一

本申し合わせ事項は、長野県軟式野球連盟少年部には地域母体のクラブチームと中学校野球部母体のチームがあることから、軟連各種大会や中体連の大会が重なることによるトラブルを防ぎ、多くのチームに上位大会（北信越・全国）出場のチャンスを与えるためのものである。

登録チームは、以下の内容を十分承知した上で、各大会に申し込むこと。

- 1 全日本少年軟式野球大会（全軟連主催 以下「全日本」）と全国中学校軟式野球大会（全軟連・中体連主催 以下「全中」）において、規定により全日本中央大会に登録（出場）した選手は全中に登録できないことから、全日本北信越ブロック予選会で代表権を得て全日本中央大会に登録する選手（チーム）は、それ以後の中体連の大会には登録（出場）しない。
- 2 全日本と中部日本中学選抜軟式野球大会（軟連主催 以下「中部日本」）において、全日本長野県予選会で優勝したチームは、それ以後の中部日本の予選会には出場しない（勝ち進んでいるチームは辞退する）。
- 3 東日本少年軟式野球大会（軟連主催 以下「東日本」）の予選会は、中部日本の予選会に兼ねる。そこで、代表チームの決定は、中部日本県予選会第1位のチームが出場する大会を選択することとし、第2位のチームがもう一方の大会の出場権を得る。
- 4 中部日本県予選会で1、2位となり中部日本及び東日本の中央大会への出場権を得たチームは、中体連県大会に出場することはできる。よって、北信越大会及び全中への出場も可能である。ただし、中部日本・東日本と北信越・全中の会期が重なる場合は、代表チームの決定方法を年度当初に協議する。（県予選会で3位決定戦を行う場合がある。）
- 5 関東・東北・北信越少年新人軟式野球大会（軟連主催）の予選会は、全日本少年春季軟式野球大会（軟連主催 以下「全日本春季」）の予選会と兼ねる。代表チームは第2位チームとする。
- 6 全日本春季へ多くのチームや選手が出場できるように、登録を次の2通り認める。
 - (1) (公財)全日本軟式野球連盟規程、第3章「チーム及び会員」（会員の登録）第10条 4の「全日本少年春季大会については、選抜または合同チームを編成し、出場することができる。」を適用する。
 - (2) 長野県軟式野球連盟規約、2 チーム会員 1)登録要件「ただし、少年チーム（少年部）の『全日本春季』に出場するため新たにチームを編成（中学3年生は除く）し、新規登録の申請があったときは認めるものとする。」によりチームを編成してよい。
また、ユニホームや背番号については全軟連盟規定に則る。ユニホームは同じものに揃えても揃えなくてもよいが、背番号は通し番号とする。

補足 上記内容を承知しているとは、チームの責任者（関係者）・指導者、選手、保護者、中学校長等が理解・承諾していることであり、大会主催者に迷惑をかけないようにする。特に、中学校野球部が母体のチームは、支部又は連合予選会申し込み前に確認しておくこと。

軟連各連合・支部軟連は、上記内容にあわせて予選会出場チームを確認すること。

不測の事態が生じた場合、軟連会長以下代表者（少年部委員会）、当該チーム責任者、中体連代表者等が慎重に審議して解決にあたる。

*アンダーラインのところは令和7年度改正

平成22年 4月 1日施行
以降、年度状況により改訂

※上記2において、中部日本の東信代表チームが、全日本の県大会で優勝した場合は、中部日本の東信大会2位のチームが繰り上がって県大会に出場できることを、軟連東信連合会では確認されています。

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

長野県軟式野球連盟東信連合会 少年部担当 小林 充 明
勤務先(上田第六中学校) TEL 0268-22-5013 FAX 0268-22-5003 携帯 090-2259-7227

第42回全日本少年軟式野球大会(ENEOSトーナメント)東信地区予選会審判表

<各チームの審判員について>

※審判は、審判に適した服装で、経験のある指導者または保護者の方をお願いします。

※試合開始15分前には集合してください。

※試合結果によっては、チームによって審判をしていただく試合数に偏りが出ますがご容赦ください。

※塁審の場所は、下記のとおりになっていますが、お二人で相談して決めていただいて結構です。

会 場 日 程		A	B	C	D	E
		佐久市営グラウンド	浅科総合グラウンド	大栄小諸野球場	県営上田野球場	上田城跡公園野球場
一 日 目	第一試合 8:00			球 軟連 ① 軟連 ② 依田窪南部中学校 ③ 佐久長聖中学校		球 軟連 ① 軟連 ② 上田第五中学校 ③ 小諸東中学校
	第二試合 9:30			球 軟連 ① 軟連 ② 塩田中学校 ③ 川上市立川上中学校		球 軟連 ① 軟連 ② 一中・北御牧 ③ 浅間中学校
二 日 目	第一試合 8:00	球 軟連 ① 軟連 ② 野沢中学校 ③ 前日C1の勝者	球 軟連 ① 軟連 ② 上田第三中学校 ③ 前日C2の勝者	球 軟連 ① 軟連 ② 臼田・小海中学校 ③ 前日E1の勝者	球 軟連 ① 軟連 ② 上田市立第四中学校 ③ 前日E2の勝者	
	第二試合 9:30	球 軟連 ① 軟連 ② 丸子北クラブ ③ 佐久市立東中学校	球 軟連 ① 軟連 ② 軽井沢中学校 ③ 御代田・芦原	球 軟連 ① 軟連 ② 上田第六中学校 ③ 中込・浅科中	球 軟連 ① 軟連 ② 東御市立東部中学校 ③ 佐久穂中学校	
	第三試合 11:30	球 軟連 ① 軟連 ② A1の敗者 ③ A2の敗者	球 軟連 ① 軟連 ② B1の敗者 ③ B2の敗者	球 軟連 ① 軟連 ② C1の敗者 ③ C2の敗者	球 軟連 ① 軟連 ② D1の敗者 ③ D2の敗者	
三 日 目	※球審とすべての塁審を軟式野球連盟の審判員が行う。 会場 … E 上田城跡公園野球場					

指名打者の取り扱いについて 5.11(a)(b)

連盟が主催する大会においては、指名打者ルールを使用することができる。

ただし、学童部・少年部は二刀流選手を採用しない。

(1) 指名打者ルールは、次のとおりである。5.11 (a)

- ① チームは、投手に代わって打つ打者(指名打者)を指名することができる。
- ② 試合開始前に交換された打順表に記載された指名打者は、相手チームの先発投手に対して少なくとも1度は、打撃を完了しなければ交代できない。ただし、その先発投手が交代したときは、その必要はない。
- ③ **チームは必ずしも指名打者を指名しなくてもよいが、試合前に指名しなかったときは、その試合で指名打者を使うことはできない。**
- ④ 指名打者に代えて代打者を使ってもよい。その代打者は以後指名打者となる。退いた指名打者は、再び試合に出場できない。
- ⑤ 指名打者が守備についてもよいが、自分の番のところで打撃を続けなければならない。投手は退いた守備者の打撃順を受け継ぐ。ただし、2人以上の交代が行なわれたときは、監督が打撃順を指名しなければならない。
- ⑥ 指名打者に代えて代走者を使ってもよい。その代走者は以後指名打者となる。指名打者が代走者になることはできない。ただし、臨時代走者になることはできる。
- ⑦ 指名打者は、打順表の中でその番が固定されており、多様な交代によって打撃の順番を変えることはできない。

(2) 指名打者の役割が消滅する場合は、次のとおりである。5.11 (a)

- ① 投手が他の守備位置についた場合。
- ② 代打者または代走者が試合に出場し、そのまま投手となった場合。
- ③ 投手が指名打者の代打者または代走者になった場合。
- ④ 打順表に10人のプレーヤーを記載したが、指名打者が特定されておらず、試合開始後にその誤りが球審に指摘され、投手が打撃順に入った場合は、投手が置きかわったプレーヤーは交代したとみなされ、試合から除き、それ以後指名打者の役割は消滅する。
- ⑤ 指名打者が守備位置についた場合。
- ⑥ 他の守備位置についていたプレーヤーが投手になった場合。

【※以下は、学童・少年の大会においては採用しない。】

(3) 二刀流選手の規定は、次のとおりである。5.11 (b)

- ① チームは、先発投手を指名打者に指名することができる。(このプレーヤーを、以下「二刀流選手」という。)
- ② 先発投手、指名打者として両方で試合に出場する場合は、別々の選手として扱う。
- ③ 監督は、打順表に10人のプレーヤーを記載し、一つは先発投手として、もう一つは指名打者として2度、同じ名前を記載する。
- ④ 二刀流選手は投手を退いても、指名打者としては出場し続けることはできるが、再び投手として出場することはできない。
- ⑤ 二刀流選手は指名打者を退いても、投手として出場し続けることはできるが、再び打者として打席に立つことはできない。
- ⑥ 二刀流選手が両方同時に交代する場合には、他の二刀流選手との交代は認められない。
- ⑦ 二刀流選手の規定を採用するかは、最初の打順表で記載するときのみできる。
- ⑧ 二刀流選手が投手として降板し、投手以外の守備位置に移った場合には、それ以後指名打者の役割は消滅する。